

愛の Mastery for Service

新 谷 陽 介

先月、看護師が入院中の老人6名の肋骨を意図的に折るというショッキングなニュースが報道されました。ストレスがあったから話せない人を狙ってやったという若い容疑者の心に、私はひどく悲しみを覚えました。

特別養護老人ホームで働くA子さんから聞いた話を紹介します。彼女はお年寄りが好きだったので、努力して勉強し、その職に就きました。ところが、時を経るにつれて仕事が嫌になったというのです。毎日へとへとに疲れ、時には便にまみれ、意思の疎通は困難で、そして誰からも感謝されず。なぜ神様は、こんな人たちを生かしているのだろう。死ぬ方が本人も幸せだ。そんなことを考える自分さえも嫌になり、出口の見えない苦しみに陥ってしまいました。

そんな悩みの中、聖書の使徒言行録10章を読んでいたときのことで。ペテロが幻の中で神様から「神がきよめたものを、きよくないなどと、あなたは言うてはならない」と3度語りかけられる場面になったとき、A子さんに「わたしが愛する老人を、あなたは愛せないのですか」という、イエスの声が聞こえたというのです。死んでしまえばいいと思っていた老人を神様が愛していることに目が開かれ、イエスが十字架にかかってまで示した愛が心に迫り、申し訳ない気持ちでいっぱいになったのです。それからというものの心から愛をこめて入居者のために働けるようになったということでした。

翻って、みなさんはスクールモットー“Mastery for Service”のもと、基礎学力や専門知識、社会人基礎力などを身につけている最中です。Masterになるまで磨き上げた能力も使い方を誤れば、冒頭の事件のように人を傷つけ、組織や経済、政治、平和を脅かすことさえあります。Masterになる者はServantでなければならないとイエスは語り^{※1}、関西学院のモットーにもなりました。しかし、Masterになれば高慢になるのが人間の性であり、口で言うほど簡単にServantにはなれません。愛がともなって初めて真のServantになれると思うのです。愛のないMasterは危険であり、愛のないServantは独りよがりです。どんなに素晴らしい能力も、愛がなければ無に等しい^{※2}のです。

みなさんはいったい何のために学んでいるのでしょうか。試みに“Mastery for Service”に照らして考えてみるのはいかがでしょうか。みなさんの学びと学生生活に、神様の豊かな祝福があることをお祈りしています。

(広報室職員)

※1) マルコによる福音書 10章43・44節

※2) コリントの信徒への手紙一 13章1～3節